

新技術で農業をよくしたい 伊東 森作

黒部西瓜の新品種を開発 「流水客土」で農地を改善 中国にケヤキとスギを植林



1897 (明治30) 年—1997 (平成9) 年2月21日

扇状地の農家の苦勞を知って

森作が生まれた下新川郡大布施村(現黒部市)は、黒部川の上流から流れてきた砂などが積み重なってできた扇状地*にあります。昔から米作りは行われてきました

が、水田は水はけが良すぎて、米作りに適した土地ではありませんでした。このため農家ではスイカなどの作物の栽培が盛んに行われていました。



森作が生まれた家

売れる黒部西瓜を開発したい



森作が描いたスイカの絵。カラー写真のない時代は、このような手描きの絵で記録していました。

下新川郡立農学校(現県立桜井高校)を卒業した森作は、大布施村の「農会」という農業の改良発達を図る団体の技術者になりました。森作は農家の収入を増やすために、新しい品種のスイカをつくり、黒部の名産として売り出したいと考えました。

まずアメリカの「フロリダフェボックツ」という品種を育てましたが、楕円形で見た目が悪かった

ので、丸い形にするために奈良の大和西瓜と掛け合わせてみました。多くの欠点が残ったので、甘露(スイカの一種)を掛け合わせ、「新黒部西瓜1号」と名づけて発表しました。このスイカは大阪の品評会で一等賞を取りました。とはいえ、栽培が難しく、とれる量も少ないという欠点が残っていました。このため、農家への普及が難しかったのです。

カラスが教えた努力の成果

森作はいろいろな品種を掛け合わせたり、条件の悪い畑で栽培してみたりして努力を重ねました。こうした苦勞がたたってか病気になるてしまい、入院することになりました。

品種改良をあきらめようと畑を見回していると、カラスに食べられて大きな穴が空いたスイカが目に入りました。このスイカは立派な形をしています。おいしいから

カラスがたくさん食べたのです。今までの努力がむだでないと考えた森作は、病気が治って退院した後、品種改良にいっそう励みました。

そして1938(昭和13)年、病気に強い品種の開発に成功し、「新黒部西瓜7号」と名づけました。このスイカは飛ぶように売れました。森作が品種改良に取り組んでから16年後のことでした。



スイカに接木をする森作

*扇状地【せんじょうち】山地から低地へ流れ出た河川の流がゆるやかになる場所に、石や土砂などが扇形に積もってできる地形のことです。

流水客土で米の増収を図る

スイカの栽培には成功しましたが、扇状地の水田は水はけが良すぎるとい問題が解決していません。そこで、森作は水田の水もちを良くするための研究を進めました。

砂地の水田には赤土を混ぜると水もちが良くなるのが分かっていた。森作は大布施近くの宮野山の赤土を混ぜることにしました。

ホースで水を当てて赤土を水に溶かした泥水をつくり、農業用水へと流して水田まで運ぶ「流水客土」という方法を考えつきました。

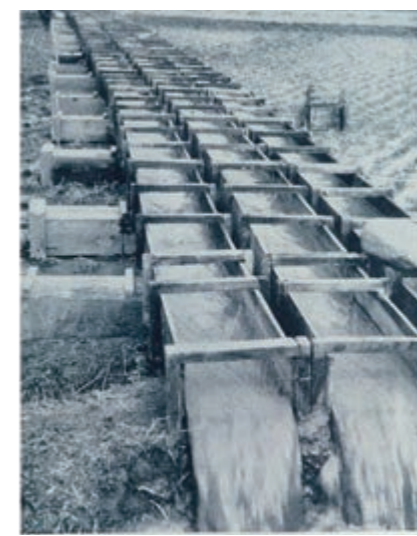
新しい方法に不安を覚え、反対する人もたくさんいました。お金がかかる仕事なので、県や政治家にも相談しましたが、理解してくれる人がなかなか増えません。そこで、森作は県議会議員になり、議員として周辺の市町村長らを説得して回りました。

その結果、黒部川沿いの幅広い農業関係者が集まって、「流水客土」を進める団体がつくられました。1951(昭和26)年から工事

がスタートしました。工事後、赤土を混ぜ込んだ水田では、以前よりも15~30%も多く米がとれるようになったのです。



流水客土採掘現場(黒部市教育委員会提供)



泥水を流す木樋(黒部市教育委員会提供)



流水客土は「黒部川沿岸冷水温障害改良事業」として行われました。水もちが良くなることで、水田の水温が安定し、米の収穫量が上がりました。(黒部市教育委員会提供)

夢や志をかなえたポイント

- 何度失敗してもあきらめない
- 目標実現のために一生懸命に勉強する
- 常に新しい方法に挑戦する

豆知識 大正時代には、現在の入善町でもスイカの栽培が盛んになりました。入善のスイカは「入善ジャンボ西瓜」として、今も全国に出荷されています。

1897 (明治30)	0歳
下新川郡大布施村に生まれる	
1912 (明治45)	15歳
下新川郡立農学校を卒業	
1917 (大正6)	20歳
大布施村農会技師となる	
1931 (昭和6)	34歳
「新黒部西瓜1号」の開発に成功	
1938 (昭和13)	41歳
「新黒部西瓜7号」の開発に成功	
1947 (昭和22)	50歳
富山県議会議員になる	
1952 (昭和27)	55歳
黒部川冷水地帯土地改良総代になる	
1954 (昭和29)	57歳
黒部市農業委員会会長になる	
1967 (昭和42)	70歳
土地改良などの功勞で褒章を受章	
1997 (平成9)	99歳
亡くなる	

コラム 中国の山林にケヤキ、スギを植林する

森作は1979(昭和54)年、「日中友好の旅」で中国へ行った息子の哲男から、中国の樹林が荒れていたことを聞きました。

森作は「戦争が中国に大きな被害を与えたのだから、せめて植林によっておわびしたい」と考え、中国の農業技術者と交流を進めていた県立技術短期大学(現県立大学)の定立原真教授にお願いし、湖南省の山林にケヤキ5000本、スギ1000本の苗を植えてもらいました。



森作がケヤキなどを植えた20年後、遺族と定立原教授(中央)が中国を訪れました。